

# 地域の6次産業を育てる!

最終回

阿波銀行

「ブランド豚を使用する外食事業」支援の取り組み

## 「阿波ポーク」を食材とする 飲食店の多店舗展開をサポート

### 店舗改装費などの円滑な資金調達方法をアドバイス

**阿** 波尾鶏・阿波牛と並び阿波畜産の3大ブランドの一つに数えられる「阿波ポーク」。このブランド豚は、徳島県が独自開発した豚「アウォーク」にランドレース種とデュロック種を三元交配して生産される。

抗生物質を一切使用せず、厳密な飼養衛生管理基準により、時間

をかけてじっくりと育てられた阿波ポークは、バランスの良い肉質と旨みが凝縮された脂身が特徴。高品質な豚肉として知られる。

今回紹介する6次産業化事業者は、しゃぶしゃぶ専門店などの飲食店を手掛ける「はらだ牧場」。

同社は、徳島県内有数の養豚事業者である原田養豚場が中心となつ

て設立。自ら生産した阿波ポークを食材に、リーズナブルな価格設定をビジネスモデルとして多店舗展開を進めている。

はらだ牧場の事業は、農林漁業成長産業化支援機構が出資同意した徳島県内初の案件で、あわぎんアグリファンドが共同出資した第1号案件である。創業の原点には

「徳島のブランド豚『阿波ポーク』を安心・安全に、そして鮮度の高い良質のまま消費者に届けたい」という強い思いがある。

以下では、阿波銀行のアグリビジネス支援の考え方や支援体制、これまでの主な取り組みなどを紹介したうえで、はらだ牧場に対する支援内容についてレポートする。

阿波銀行が営業拠点を置く徳島県は四国東部に位置する。県東側は紀伊水道に面し、西から東に日本一の清流・吉野川が流れる。豊



かな自然に恵まれ、春の鳴門わかめ、夏のすだち、秋のなると金時、冬のゆず。と、四季折々の特産物が生産される。

徳島県は、瀬戸内海を挟んで、神戸・大阪と向かい合っていることから、関西圏との経済的なつながりが深く、古くから京阪神地域の食を支える「関西の台所」として発展してきた。全国ブランドのなると金時、ゆずなどのほかに、れんこん、生しいたけ、プロッコリーなど数多くの野菜・果樹が大阪中央卸売市場の販売金額でトップクラスのシェアだ。

畜産では、阿波踊りにちなんで名付けられた「阿波尾鶏」が、平成10年から地鶏部門で全国1位の出荷羽数を誇る。水産では、わかめのほか、はも、あわび等が大阪中央卸売市場のシェアでトップクラス。鳴門海峡の激流にもまれ身が引き締まった「鳴門鯛」は食通も唸らせる水産ブランド品だ。

このように、徳島県の農林水産業は、様々な品目をバランスよく生産している点の特徴といえる。ただ、京阪神地域という一大消

費地を抱える徳島県においても、他県同様、産地間競争や国際競争の激化による価格低迷、就労者の高齢化、都市化に伴う農地の減少などの課題を抱えている。

その一方、消費者の食の安全・安心への関心は高まっており、活力ある農水産業を実現するためには、栽培履歴の透明化など安心・安全な生産方法のPRを含めた農水産物のブランド化の推進が求められている状況だ。

**徳島チャレンジメッセで食に特化した商談会を実施**

こうした中、阿波銀行では従来からアグリビジネスへの支援に注力してきた。

「地元の1次産業を盛り上げるには、農畜産家が単独で取り組むだけでなく、私も地方銀行が行政や研究機関などとタッグを組んで、1次産業の皆様と2次・3次の事業者の皆様との連携をサポートすることが大切。地元ぐるみで基幹産業である1次産業を支えて、盛り上げていくことが地方創生につながるものと考えていま

す」

こう話してくれたのは営業推進部営業支援課の林裕己さん。阿波銀行が平成16年12月に農林漁業金融公庫（現日本政策金融公庫）と業務提携した直後から、アグリビジネス支援を担当する経験豊かな専任者だ。

阿波銀行は平成26年6月に組織改定を行い、取引先へのソリューション営業を担当する部署を営業推進部の中へ移行し、営業支援課が新設された。以降、営業支援課が中心となり、経営規模の拡大、資金調達、ビジネスマッチング、新規就農、6次産業化や農商工連携などアグリビジネス全般の経営支援を展開している。

マッチング商談会としては、ここ数年、徳島ニュービジネス協議会が開催する徳島チャレンジメッセという大規模見本市に参加。その中で、県の農林水産部が中心となってサプライヤー（生産者）を呼び、阿波銀行など地元金融機関がバイヤー（スーパー、卸売業、飲食店等）を呼んで、食に特化した商談会を行ってきた。